

プレスリリース
グラスヒュッテ/ロンドン、2019年7月11日

空間と時の旅 - モリッツ・グロスマン、 ロンドンにて ムーン・イン・スペースを披露

美しい月へのオマージュ

- モリッツ・グロスマンロードショー2019の一環として、2019年7月11日、ロンドンにてムーン・イン・スペース、およびその新作ビデオを披露
ビデオへのリンク: <https://ja.grossmann-uhren.com/news/>
- 丁寧に手作業で仕上げられた月のモチーフとレリーフエンゲイブ
- ブラックとホワイトのグラン・フー・エナメル加工による美しいコントラストのダイヤルデザイン
- サイズが異なるケースおよびムーブメントが織りなす魅惑的なプロポーション
- 世界限定8本

印象的、ミステリアス。月は長きに渡り、人々を魅了してきました。地球に最も近い天体として、数多くの詩人、思想家、研究者や宇宙飛行士にインスピレーションを与え、今もなお人々に多大なる影響を与えています。地球を回るその周期をもとに、時間の概念が生まれ、1年を12ヵ月で分けるきっかけとなりました。つまり、地球の生物のリズムを、コントロールしている存在でもあるのです。

月の美しさ、輝き、力は、グラスヒュッテの時計製造メーカー、モリッツ・グロスマンにも創造力をもたらしました。そして、モリッツ・グロスマンは、月の魔法を美しい輝きを放つ時計に封じ込めたのです。こうして完成したムーン・イン・スペースは、魅惑的な惑星へのオマージュであり、大胆な美的センスと高い精度にて、時と空間を融合した時計です。

ダイヤルには、まるで宇宙を彷徨っているような球体が、施されています。美しい加工が施された、銀色に輝く月のダイヤルは、多くの人々の目を惹きつけるアイキャッチャーです。その月の上には、時針と分針が施されたダイヤル、そしてスモールセコンドが施されたダイヤル、つまり2つの小さなダイヤルが施されています。

このサイズの異なるダイヤルのコンビネーションが大胆なプロポーションのコントラストを生みだし、ユニークなデザインに仕上げられています。ムーン・イン・スペー

ス特有のサイズバリエーションというコンセプトは、他のコンポーネントにも活かされています。直径 44.5 mm のケースは、わずか 26.0 mm しかないキャリバー 102.0 の約 2 倍近くのサイズです。この大きな違いさえも、ムーン・イン・スペースは、エレガントで軽やかなタッチに、変えてしまう力を持っています。

ムーブメントは、ムーブメント固定リングにより、リュウズの位置でケースに固定されており、4 本のブラックゴールド加工されたサポートが、それを支えています。このサポートは、高さが異なるケースの縁とムーブメント固定リングのギャップ部分に施されており、世界初の人工衛星、スプートニクの 4 本のアンテナを思い起こさせる、大胆なデザインです。反射防止コーティングが施されたサファイアクリスタルにより、ムーン・イン・スペースの内部エレメントと緻密な構造を、目で楽しむことができると共に、空間を漂う惑星のイメージがさらに強化されています。

ダイヤモンドのように、マットに輝く材料で創られた漆黒のケースは、宇宙の闇を象徴しています。その独特な外観は、真空状態でステンレスに炭素を付着させる「ダイヤモンドライクカーボン (DLC)」コーティングによるものです。この高度なコーティング技術により、傷、摩耗、腐食に強い、超高耐久性の美しい漆黒の表面を、実現することができました。

ダイヤル

天体のモデルは、高度な職人技による精度と、ディティールへの大きな愛により仕上げられています。ドーム型の表面が、銀色に輝く月のモチーフを立体的に見せています。レリーフ状の構造は全て手作業で加工されており、特徴的な凹凸が、月の景観をリアルに表現しています。ムーン・イン・スペースの起源として、モリッツ・グロスマンの上品なロゴが、左上のエッジに、手作業で施されています。

銀色の光沢を放つ表面が、アラビア数字が施された 2 つの小さなダイヤルの存在を、際立たせています。時針、分針を装備したダイヤルには、ホワイトのグラン・ブルー・エナメル加工が施されています。そのダイヤルとコントラストを成すブラックのグラン・ブルー・エナメル加工が施されたスモールセコンドが、7 時部分に設置されています。コントラストが美しいグロスマン製針により、両ダイヤルとも、明確に読み取ることができます。丁寧に手作業で仕上げられた最高級ステンレス製時針、分針には、ブラウンバイオレットの焼き戻し加工が施され、スモールセコンドのステンレスには、ポリッシュ加工が施されています。ピンバックルを装備したブラックの最高級アリゲーターストラップが、調和のとれた漆黒のアクセントになっています。

自社製キャリバー 102.0

最高級ムーブメントが、自社製キャリバー 102.0 で登場しました。小ぶりのサイズにも関わらず、5 分の 3 プレートのクラシックな構造を有するこのキャリバーには、グロスマン製調整ネジ付き段差式テンプ受け、個別に取外し可能な巻き上げ機構、質量を改良したテンプ等、グロスマン特有のエレメントが全て組み込まれています。サファイアクリスタル製のシースルー裏蓋により、機械的に成熟した美しいムーブメントエレメントの動きを楽しむことが可能です。

製造工場創立者のクリスティーン・フッターとそのチームは、ムーン・イン・スペースを完成させたことにより、グロスマンのパイオニア精神、高精度の機能性という哲学に、「最も美しいドイツの職人技」そして製造における細部へのこだわりを体感させてくれる新たな傑作を、融合させました。

ロンドンにて、ムーン・イン・スペースを発表

2019 年 7 月 11 日、ロンドンで開催されたモリッツ・グロスマン ロードショー 2019 のファイナルにて、ムーン・イン・スペースが披露されました。当日は、蠍座の方角に、上弦の月が現れる予定です。いわゆる「月暦」によると、2019 年 7 月 11 日は、商売の成長、可能性を表す日だということです。つまり、不朽のクオリティを有する時計製造メーカー、モリッツ・グロスマンの時計に決めるのに、最適な日かもしれません。

ムーン・イン・スペース プロモーションビデオ

ムーン・イン・スペースの新作動画は、[こちら](#)をご覧ください。

バリエーション

モリッツ・グロスマンのムーン・イン・スペースは、ステンレス DLC バージョンでお求めいただけます。

販売数は、限定 8 個です。

Ref. :	MG-002417
ケース :	ステンレススチール DLC コーティング
ダイヤル :	ブラックとホワイトのグラン・フー・エナメル、アラビア数字のインデックス
針 :	手仕上げで焼き戻しブラウンバイオレットに発色させたスチールもしくはポリッシュ仕上げステンレススチール

技術データ：

ムーブメント	自社製キャリバー 102.0、手巻き、5 姿勢調整 部品数 196 個
石数	26 石（うち 3 石はネジ留め式ゴールドシャトンに使用）
脱進機	アングル脱進機
調速機	質量ネジ 4 本および調節ネジ 2 本を装着した耐震軸受式グロスマン製テンプ、ニヴァロックス 1 ヒゲゼンマイを下側に設置
テンプ	直径：10.0 mm 振動数：21,600 振動/時
パワーリザーブ	完全巻き上げ状態から約 48 時間
機能	時、分、スモールセコンド
操作	ステンレススチール DLC リュウズ（巻き上げおよび時刻設定用）
ケースサイズ	直径：44.5 mm、厚さ 13.8 mm
ムーブメントサイズ	直径：26.0 mm、厚さ 3.45 mm
ケース	スリーピース、ステンレススチール DLC
ダイヤル	スリーピース、ブラックとホワイトのグラン・フー・エナメル、アラビア数字、レリーフエングレイブを施したドーム型ムーブメントディスク
針	手仕上げ、時、分針は焼き戻してブラウンバイオレットに発色させたスチール、スモールセコンドはポリッシュ仕上げをしたステンレス
風防	片面反射防止加工をしたサファイアクリスタル
ストラップ	アリゲーター・ストラップ、ステンレススチール DLC 製ピンバックル
特徴	質量ネジおよび調節ネジを装着した耐震軸受式テンプ、インパルスピンをリムに固定、フラットヒゲゼンマイ、統合型安全ロール付きのテンプ芯、グロスマン製精密調整ネジによる緩急調整装置、5 分の 3 プレート・支柱・個別に取り外し可能なクラッチ式巻き上げ機構からなるプレート構造、表面処理をしない洋銀のフレーム基部、平型ネジ留め式の盛り上がったゴールド

シャトン、グラスヒュッテ式コハゼ装置（改良型戻し機能付き）、ゼンマイ切れに備えエネルギー効率の最適化を実現する両側とも受け石に載せられた香箱、ARCAP ギアトレイン、自社開発 18 歯ガンギ車を備えた脱進機

モリッツ・グロスマン・ウーレン社 - Moritz Grossmann Uhren

1826 年にドレスデンで生まれたモリッツ・グロスマンはドイツの偉大な時計職人を代表する先駆者的な存在です。その友人であったフェルディナント＝アドルフ・ランゲは 1854 年、自らの機械式工房をグラスヒュッテに設立するよう、この才能に溢れる若き時計職人を説得しました。グロスマンは高名な時計工房を構築するかたわら、政治的、社会的な貢献も果たし、1878 年にはドイツ時計学校を設立しました。モリッツ・グロスマンは 1885 年突然この世を去り、彼の工房は解体されました。

熟練の時計職人クリスティーネ・フッターがいにしえのグラスヒュッテの時計ブランド「モリッツ・グロスマン」を発見し、これを保護することにより、モリッツ・グロスマンの伝統的な時計作りに対する情熱が 2008 年に再び甦りました。フッターは構想を練り上げ、120 年以上経った後にグロスマンの遺産を極上の腕時計によって体現するというビジョンに胸を膨らませました。彼女は自らの夢の実現をサポートしてくれるよう、個人の時計愛好家たちを説得しました。そして 2008 年 11 月 11 日、グロスマン・ウーレン社 (Grossmann UHREN GmbH) をグラスヒュッテに設立します。

グロスマンの時計職人は今日もなお、歴史的な品を複製することなく、その伝統を維持しています。革新力、最高の手工業技能、伝統をもって、しかしながら最新の製造手法と最高級の素材を利用しながら、その時計を通して、「最も美しいドイツの職人技」を創造します。

画像および動画 ダウンロード：

<https://my.hidrive.com/share/whf0rq.346>

グロスマン・ウーレン GmbH 詳細情報 ダウンロード：

<https://my.hidrive.com/share/griputry38>

グロスマン・ウーレン GmbH：

<https://ja.grossmann-uhren.com/>

<https://ja.grossmann-uhren.com/news/>

詳細ならびに高解像度の画像資料に関しては、以下までご連絡ください。

モリッツ・グロスマン・ジャパン 連絡先：

モリッツ・グロスマン・ジャパン株式会社

担当者：瓜生 まり子（マーケティング+PR）

東京都文京区小石川 4-15-9

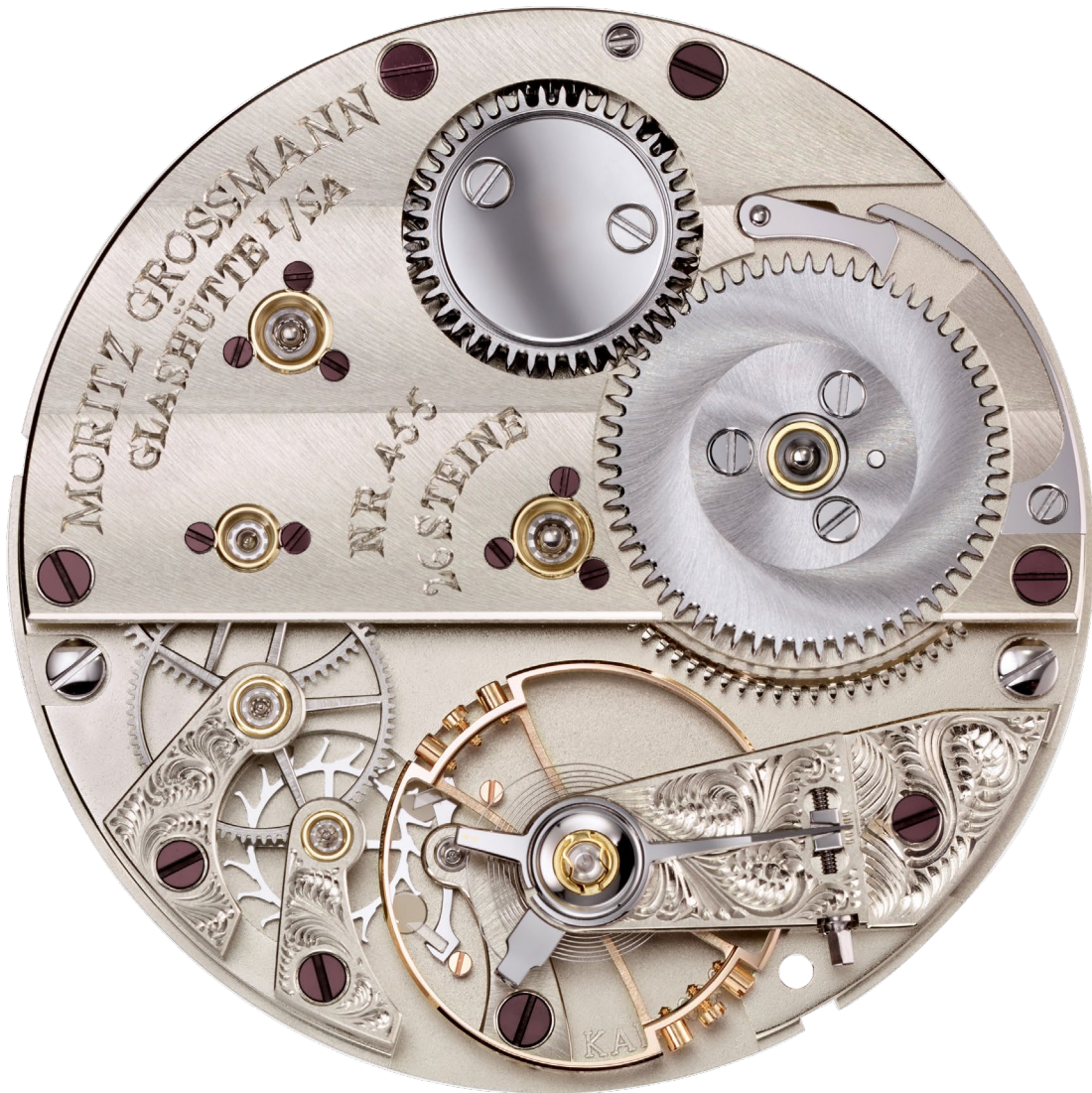
Tel: 03-5615 - 8185

Fax: 03-5615 - 8186

mariko.uriu@grossmann-uhren.com



ムーン・イン・スペース



キャリバー 102.0